

7 赤穂義士(大石内蔵助ほか)の墓/一運寺 大阪市住吉区住吉2-6-23

- この寺に赤穂義士3名の墓があります。
大石内蔵助良雄、大石主税良金、寺坂吉右衛門です。
宝暦年間(1750年頃)に天野屋利兵衛のゆかりと称する人物が建てたとされていますが、正確なところは不明のようです。

寺坂吉右衛門

赤穂浅野家が刃傷事件のためお取り潰しになった際には、寺坂吉右衛門は赤穂藩には仕えていませんでした。その後、大石内蔵助に頼み込み、義士の一員に加えられました。
元禄16年(1703)、吉良邸討入り後、寺坂は広島藩浅野家に伝令を命じられ、他の義士は自首します。大石内蔵助は寺坂は行方不明と告げたため、切腹は免れています。
延享4年(1747)に亡くなりますが、83歳まで生き永らえています。



赤穂義士の墓と刻まれている碑



大石内蔵助の墓



寺坂吉右衛門の墓



大石主税の墓



8 土佐藩住吉陣屋ゆかりの興善寺

大阪市住吉区住吉2-6-12
(住吉村常盤会館)

- 土佐藩住吉陣屋での病死者を葬るための、藩の寺院である興善寺がこのあたりにありました。
明治維新後、興善寺は廃寺となり、その跡地に住吉青年会の建物が建てられ、現在、住吉村常盤会館となっています。



9 旧熊野街道(旧住吉村役場跡)

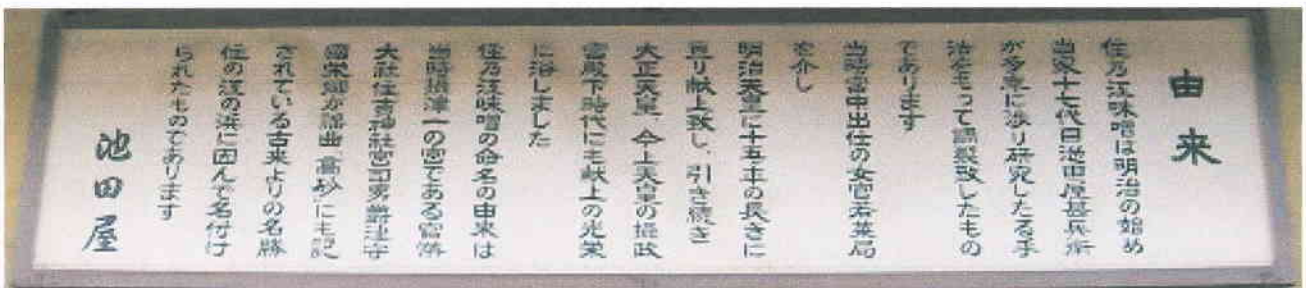
大阪市住吉区住吉1-11



10 有形文化財登録建造物「池田屋」

大阪市住吉区住吉1-9-22

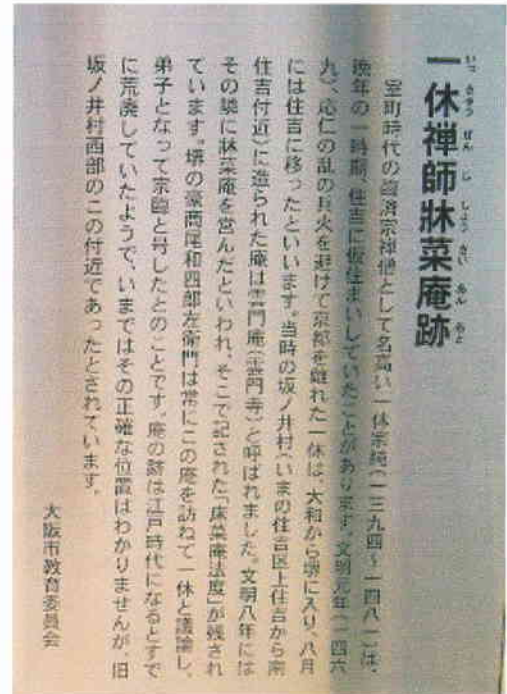
- ▶ 明治・大正・昭和天皇に献上していた住乃江味噌を商う池田屋で、建物が有形文化財に登録されています。
「住乃江味噌」はおかず味噌で、独特の赤い粒味噌と砂糖とをすりつぶし、黄胡麻を合わせたものです。
それぞれの味と風味がうまく調和して、素材そのものの旨味を十分に引き出しています。



11 一休禪師寓居(牀菜庵)跡

大阪市住吉区上住吉2-6

- 一休和尚(1394~1481)が、晩年仮棲したところです。一休は後小松天皇の落胤と伝えられ、天衣無縫・反骨で終始し、京都・奈良・堺などに移り住みました。文明元年(1469)奈良から堺に来て、住吉に住居していました。翌年、堺の豪商尾和宗臨がここに一庵を設けて一休を招請しました。一休はここを雲門庵と称し、弟子ともども移り住み、数年後この空き地の一角に別の庵をつくり、牀菜庵(しょうさいあん)と称しました。



II. 住吉大社

12 豊臣秀頼ゆかりの鳥居

大阪市住吉区住吉 2(住吉大社)

- 慶長年間に豊臣秀頼が片桐且元を奉行として建立させた鳥居です。



13 後醍醐天皇ゆかりの車返しの櫻

大阪市住吉区住吉 2(住吉大社)

- この付近に津守家の菩提寺だった慈恩寺(明治になり廃寺)に住吉名勝の「車返しの櫻」と呼ばれる桜がありました。車返しの由来は、後醍醐天皇が住吉大社に来られた際、この桜をご覧になり、通りすぎて再び車を返してご覧になり、愛でられたという故事によります。当時の桜は枯れましたが、平成11年「未来樹」として、京都嵯峨野の紅八重桜を移植しています。



14 卯の花苑

大阪市住吉区住吉 2(住吉大社)

- ▶ 住吉大社は卯年の卯月の卯日にはじめて鎮座したと伝えられることから、卯・兎・卯の花とが大切にされ、なかでも卯の花は住吉創立記念のお祭り「卯の葉神事」には欠かすことのできない花となっています。この花は5月～6月、日当たりのよい山野で咲き、旧暦の卯月(4月)に咲くことから卯の花といわれています。また、枝の内が空洞であることから「ウツギ」とも呼ばれています。

卯の花苑は、住吉大社にゆかりの深い卯の花を保護育成して、卯の葉を捧げる神事の美風を後世に伝承・顕彰するためにも、昭和61年大阪市の協力を得て、全国各地より各品種を集め、財団法人住吉名勝保存会によって「卯の花苑」が造成されました。苑内には25品種が約500株が植えられています。



15 石舞台

大阪市住吉区住吉 2(住吉大社)

- ▶ 日本三舞台(住吉大社・厳島神社・四天王寺)のひとつで重要文化財に指定されています。毎年5月の卯之葉神事では、雅びでござかに舞樂が行なわれます。



16 住吉大社第一本宮～第四本宮

大阪市住吉区住吉 2(住吉大社)

- ▶ 14代仲哀天皇の妻である神功皇后(しんぐうこうごう)が新羅(しらぎ)に出兵する際に、住吉大神の力をいただいたことがきっかけです。新羅遠征により、大いに国の安定を築くことができたため、住吉大神のお告げによって、この住吉の地に祭られることになりました。平安末期、第三本宮より鎬矢が西方へ飛び去ったそうです。その後、平家が壇ノ浦で滅んだという伝説があります。

